



ファームウェアバージョン:	V2.00.B023	
ハードウェアバージョン:	DGS-3200-10/GE	A1、A2、A3、B1
	DGS-3200-16/GE	A1、A2
	DGS-3200-24/GE	A1
発行日:	2011/11/30	

本リリースノートには、D-Link 製スイッチのファームウェア更新に関する重要な情報が含まれています。ご使用のスイッチに対応するリリースノートであることを確認してください。

- 新しいスイッチにインストールを行う際には、デバイス上のハードウェアバージョンの表示を確認し、ご使用のスイッチがファームウェアのシステム要件を満たしていることを確認してください。ファームウェアとハードウェアの互換性についての詳細情報は、“変更履歴とシステム要件”の項を参照してください。
- 新しくリリースされたファームウェアへのアップグレードを行う場合は、“アップグレード手順”の項を参照しながら正しい手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

スイッチ本体に関する詳細な情報が必要な場合は“ユーザマニュアル”を参照してください。

目次:

変更履歴とシステム要件:	2
アップグレード手順:	2
CLI(シリアルポート)を使用したアップグレード	2
Web-UIを使用したアップグレード	4
追加機能:	7
MIBおよびD-Viewモジュールの変更点:	9
コマンドラインインタフェースの変更点:	10
修正した問題点:	11
既知の問題:	12

変更履歴とシステム要件:

ファームウェアバージョン	リリース日付	モデル	ハードウェアバージョン
ランタイム: v2.00.B023 Prom コード: v1.00.B012	2011/11/30	DGS-3200-10/GE	A1、A2、A3、B1
		DGS-3200-16/GE	A1、A2
		DGS-3200-24/GE	A1

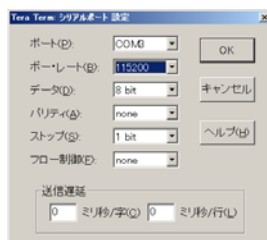
アップグレード手順:

アップグレードを行うには、[CLI\(シリアルポート\)を使用する](#)、もしくは[Web-UIを使用する](#)ことで、アップグレードを行うことができます。PROMコードのアップグレードは「PROMのアップグレード」の手順通り行って下さい。

CLI(シリアルポート)を使用したアップグレード

1. スイッチの電源を切り、RS-232 シリアルポート(コンソールポート)で PC と接続し、ターミナルソフトウェアを起動します。ターミナルソフトウェアの設定は下記の通りです。(本手順書ではターミナルソフトウェアは Tera Term を使用しています。)

- ボーレート: **115200**
- データビット: **8**
- パリティ: **none**
- ストップビット: **1**
- フロー制御: **none**



2. VT-100 のエミュレーションが可能な端末エミュレーションプログラムが起動していて、かつシリアルポートに上記設定を施した PC と、本スイッチのシリアルポートを RS-232 DB-9 ケーブルで接続します。
3. 接続が正常に行われると、ユーザ名とパスワードの入力を求められますが、管理者のユーザ名及びパスワードは、初期状態では登録されていないので「enter」キーを 2 回押し、ログインします。
4. ログイン後は下記のコマンドを使用し、ファームウェアのアップデートを行います。

コマンド	説明
download [firmware_fromTFTP [<ipaddr> <ipv6addr>] <path_filename 64> image_id <1-2>]	スイッチにファームウェアをダウンロードします。
config firmware image image_id <int 1-2> boot_up	Boot up イメージファイルの変更をします。
show firmware information	現在のブートイメージと設定ファイル名を表示します。
Reboot	スイッチをリブートします。

※ CLI コマンドの詳細は CLI マニュアルを参照下さい。

次ページの例を参考にファームウェアのアップデートを行ってください。

例:

DGS-3200-10:4#download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 DGS-3200_FW_R200B023.had image_id 2

Command: download firmware_fromTFTP 10.90.90.91 DGS-3200_FW_R200B023.had image_id 2

Connecting to server..... Done.

Download firmware..... Done. Do not power off!

Please wait, programming flash..... Done.

DGS-3200-10:4#config firmware image_id 2 boot_up

Command: config firmware image_id 2 boot_up

Success.

DGS-3200-10:4#show firmware information

Command: show firmware information

Image ID : 1

Version : 1.50.B058

Size : 3727520 Bytes

Update Time: 0 days 00:00:00

From : Serial Port(Prom)

User : Unknown

Image ID : 2(Boot up firmware)

Version : 2.00.B023

Size : 4138808 Bytes

Update Time: 2000/01/01 00:01:16

From : 10.90.90.91(Console)

User : Anonymous

DGS-3200-10:4#reboot

Command: reboot

Are you sure you want to proceed with the system reboot?(y/n)y

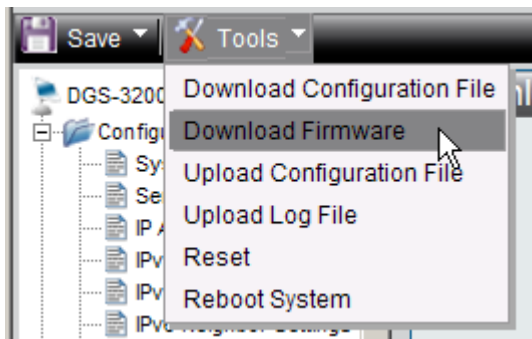
Please wait, the switch is rebooting...

注意: スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

リブート終了後に、“show switch”コマンドを実行して、新しいファームウェアに更新されているかを確認してください。

Web-UIを使用したアップグレード

1. Java SE runtime environment をダウンロードして、お客様の PC にインストールします。
2. システムの IP アドレスを指定してスイッチにアクセスします。デフォルトのシステム IP アドレスは 10.90.90.90 です。
3. PC 上で TFTP サーバを有効にします。(必ず TFTP サーバをご使用の PC にインストールを行っておいてください。)
4. お客様の PC から RJ45 ネットワークケーブル経由でスイッチにアクセスできることを確認し、Web 管理画面からログインしてください。管理者のユーザ名とパスワードを入力は、初期状態では登録されていないので「空白」でログインを行ってください。
5. スイッチのファームウェア更新を行うには、**Tools > Download Firmware** の順にクリックします。



6. 「Download Firmware」画面において、必要な情報を入力します。
 - Server IP タイプ (IPv4 もしくは IPv6) を選択し、選択した IP タイプの入力欄に TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
 - File Name: TFTP サーバ上に保存したダウンロード済みのファームウェアファイル名を入力します
 - Image ID: ファームウェアを格納したい Image ID (1 もしくは 2) を選択します。

A screenshot of the 'Download Firmware' form in the Web-UI. The form has the following fields: 'TFTP Server IP' with the value '10.90.90.91', 'TFTP File' with the value 'DGS-3200_FW_R200B023.had', and 'Image ID' with a dropdown menu showing '2'. There are radio buttons for 'IPv4' (selected) and 'IPv6'. A 'Download' button is at the bottom right.

必要な情報を入力後、「Download」ボタンをクリックしてください。

- 「Download」ボタンをクリックすると、ファームウェアのダウンロードが開始され、下記画面のように表示されます。

Download Firmware

Current Status: File transferring...

File Transfer:

Percentage 27%

Program Firmware:

Write Flash Status -

- File Transfer の値が 100% になり、Program Firmware のフィールドに "Completed" と表示されるまで待ちます。

Download Firmware

Current Status: File Transfer Success !!

File Transfer:

Percentage 100%

Program Firmware:

Write Flash Status Completed.

- 次のスイッチリブート時にブートアップを行う側のイメージを選択する前に、**Configuration > Firmware Information** の順にクリックし、ファームウェアがアップロードされたことを確認します。

Firmware Information								Safeguard	
ID	File Name	Version	Size (Bytes)	Update Time	From	User			
*1	--	1.50.B058	3727520	0 days 00:00:00	Serial Port(Prom)	Unknown	Set Boot	Delete	
2	--	2.00.B023	4138808	2000/01/01 00:03:42	10.90.90.91(WEB)	Anonymous	Set Boot	Delete	

※は現在ブートアップファイルとして設定されている Image ID を指しています。

- 新しくアップロードしたファームウェアを次回ブートアップファイルとして設定するために、設定したい Image ID を選択し、「Set Boot」ボタンをクリックし、ブートアップファイルを設定します。

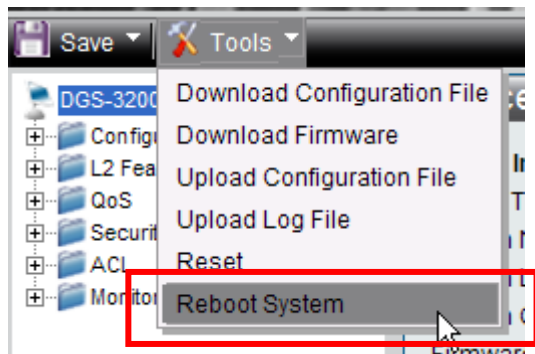
Firmware Information								Safeguard	
ID	File Name	Version	Size (Bytes)	Update Time	From	User			
*1	--	1.50.B058	3727520	0 days 00:00:00	Serial Port(Prom)	Unknown	Set Boot	Delete	
2	--	2.00.B023	4138808	2000/01/01 00:03:42	10.90.90.91(WEB)	Anonymous	Set Boot	Delete	

11. ブートアップファイルの登録が正常に終了すると、「Success!」とメッセージが表示されます。

Firmware Information								Safeguard	
ID	File Name	Version	Size (Bytes)	Update Time	From	User			
1	--	1.50.B058	3727520	0 days 00:00:00	Serial Port(Prom)	Unknown	Set Boot	Delete	
*2	--	2.00.B023	4138808	2000/01/01 00:03:42	10.90.90.91(WEB)	Anonymous	Set Boot	Delete	

※は現在ブートアップファイルとして設定されている Image ID を指しています。

12. スイッチのリブートを行なうために、Tools> Reboot System の順でクリックし、



13. 「Reboot System」画面で、「Do you want to save the settings?」で「Yes」を選択し、「Reboot」ボタンをクリックします。

Reboot System		Safeguard
Do you want to save the settings ? <input checked="" type="radio"/> Yes <input type="radio"/> No		
If you do not save the settings, all changes made in this session will be lost.		
		Reboot

注意: スイッチの再起動中に、電源を切らないでください。再起動中に電源を切ると、起動に失敗し、起動できなくなることがあります。故障の原因となりますので、ご注意ください。

リブート終了後、WEB-UI のトップページに表示される Device Information において、新しいファームウェアに更新されているかを確認してください。

追加機能:

ファームウェアバージョン	追加機能
V2.00.B023	<ol style="list-style-type: none"> 1. アプリケーションによるトラストホストが 30 エントリまでサポートできるよう対応致しました。 2. DHCPv6 クライアントに対応致しました。 3. DHCPv6 スヌーピング、NDP スヌーピング、及び IMPBv6 に対応致しました。 4. ブロードキャストストームコントロール機能において、“countdown”のパラメータを“3-30”分、“time_interval”のパラメータを“5-600”秒に対応致しました。 5. IEEE 802.3ah に対応致しました。 6. ホストベース IGMP スヌーピング fast leave に対応致しました。 7. ユーザアカウントのパスワードを 32 文字まで対応するよう拡張致しました。 8. グリーティングメッセージを 24 行(各行は 80 バイト)まで表示できるよう対応致しました。 9. SNMP 経由でメモリのステータスを取得できるよう対応致しました。 10. 認証データベースフェイルオーバー機能を強化致しました。RADIUS サーバタイムアウト時、クライアント認証でバイパスする際のパラメータを追加致しました。 11. DHCP リレーオプション 82 にキープ、リプレイス及びドロップのアクションを追加致しました。 12. DHCP リレーオプション 12 に対応致しました。 13. スイッチのシリアルナンバーを取得する MIB ファイルを追加致しました。 14. トランクメンバーポートを無効にする機能に対応致しました。 15. CLI ターミナルの長さの設定に対応致しました。 16. スタティック IGMP スヌーピンググループに対応致しました。 17. 例外処理が発生した場合に、スイッチはフラッシュメモリに必要な全データを保存し、自動的にリブートする exception/debug ハンドラーに対応致しました。リブート後、ユーザは TFTP 経由でデバッグ情報をダウンロードすることが可能です。 18. IMPB v3.82 に対応致しました。(IMPB とリンクアグリゲーションは同一ポートに設定できません。) 19. effective 及び modify の特定部分を確認するために、“show config”コマンド機能を強化致しました。 20. 最大 802.1X ホストベースアクセスコントロールユーザ数をポート毎の制限からシステムプール毎へと変更致しました。 21. STP モード時のエッジポートに対応致しました。 22. アカウントメッセージとともにコマンドロギングに対応致しました。 23. JWAC モニタ機能を強化致しました。認証済み JWAC ユーザの MAC アドレスとともに IP アドレスとユーザ ID が表示可能です。 24. PPPoE circuit ID Insertion 機能に対応致しました。 25. セキュリティモジュールによって作成された MAC エントリを表示する“show fdb security”コマンドに対応致しました。 26. WAC に対応する RADIUS アカウンティングに対応致しました。 27. 設定ファイルの保存/ダウンロード/アップロードが完全に終了後にトラップを送信する機能に対応致しました。 28. SNMP 経由でファームウェアのアップグレード終了にトラップを送信する機能に対応致しました。 29. NLB に対応致しました。 30. BPDU アタック防止に対応致しました。

31. LLDP-MED に対応致しました。
32. 最大マルチキャストグループ数に達した場合に、“max_mcast_group”にリプレイスとドロップアクションが設定できるよう対応致しました。
33. FQDN に DNS Resolver を対応致しました。
34. Clipaging が無効になっている場合、“refresh”の動作を無効にできるよう対応致しました。
35. ログ機能を強化致しました。MAC アドレス及びポートナンバーとともに IP アドレスを含むスプーフィング攻撃に対応致しました。
36. Voice VLAN v2.1 に対応致しました。
37. 認証成功後における ACL 割当に対応致しました。
38. show config current_config、NVRAM 及び upload_config において、フィルタコマンドに対応致しました。
39. ポートスピード及びデュプレックスの設定方法を変更致しました。
40. メディアタイプ、スピード、使用率等の情報を追加することで“show ports”コマンドの機能を強化致しました。
41. SSH のデフォルトポート番号の 22 から希望するポート番号への修正・変更に対応致しました。
42. スタティック FDB を作成する MIB を追加致しました。
43. DHCPv6 リレーエージェントに対応致しました。
44. “show error ports”コマンドに対応致しました。
45. ブロードキャストストームコントロールから無効ポートの自動リカバリに対応致しました。
46. 中間認証証明書 (Intermediate CA Certificate) に対応致しました。
47. JWAC ローミングに対応致しました。
48. LACP トラップ v1.1 に対応致しました。
49. pre-config TFTP 設定に対応致しました。
50. 802.3ah DULD に対応致しました。
51. トラブルシューティングコマンド“show tech support”に対応致しました。
52. “マルチプル認証”から“Compound 認証”に名前を変更致しました。
53. “show config”コマンドを実行すると、“enable admin”セクションにおいて暗号化されたパスワードが表示されるよう対応致しました。
54. Gratuitous ARP に対応致しました。
55. キュー毎の帯域制御に対応致しました。
56. igmp_snooping を有効化もしくは filter_unregistered_group を設定すると、リザーブ済みのマルチキャストパケットをパススルーするよう対応致しました。
57. D-Link Zone Defense に対応する MIB 定義を追加致しました。
58. IGMP グループをジョインする際に、Acct-Status-Type=Start を送信するように対応致しました。
59. MAC Blackhole に対応致しました。
60. SD カードマネージメントに対応致しました。
61. 追加情報なしに、直ちに reboot/reset コマンドを実行させるために、force_agree パラメータを追加致しました。
62. ループバック検知 v4.03 に対応致しました。
63. パスワードリカバリの有効化/無効化に対応致しました。
64. WAC カスタマイズ WEB GUI ページに対応致しました。
65. TACACS+認証によるユーザ権限認証に対応致しました。
66. 異なるタグによる VLAN ID もしくは VLAN 名とともに、RADIUS VLAN 割当に対応致しました。
67. DHCP ローカルリレーが有効化の場合、オプション 82 remote-ID user-configurable もしくはオ

- ブション 82 removable に対応致しました。
68. L2 プロトコルトンネリング(L2PT)に対応致しました。
69. 設定ファイルはファイル名を設定できるよう対応致しました。
70. D-Link Green 3.0 に対応致しました。
1. LED 消灯による省電力
 2. ポート未使用による省電力
 3. システム休止状態による省電力
71. DHCP サーバに対応致しました。
72. ケーブル診断機能へのアクセス権限をユーザレベル毎に対応できるよう致しました。

MIBおよびD-Viewモジュールの変更点:

MIB ファイルの追加機能は、対応する D-View モジュールにも実装されます。

ファームウェアバージョン	MIB ファイル	追加機能
V2.00.B023	Auth.mib	認証データベースフェイルオーバー機能強化に対応致しました。:RADIUS サーバタイムアウト時、クライアント認証でバイアスする際のパラメータを追加
	BPDUProtection.mib	BPDU アタック防止機能に対応致しました。
	DNSResolver.MIB	FQDN:DNS Resolver に対応致しました。
	DHCPv6Relay.mib	DHCPv6 リレーエージェントに対応致しました。
	DHCPv6Server.mib	DHCPv6 サーバに対応致しました。
	DULDL.mib	IEEE 802.3ah extension - DULDL に対応致しました。
	Equipment.mib	D-Link Green v3.0 に対応致しました。
	Genmgmt.mib	<ol style="list-style-type: none"> 1. アプリケーションによってトラストホスト数が最大 30 エントリまで対応致しました。 2. SNMP 経由でメモリステータスを取得できるように対応致しました。 3. アカウントメッセージとともにコマンドロギングに対応致しました。 4. 設定ファイルの保存/ダウンロード/アップロードが完全に終了後にトラップを送信する機能に対応致しました。 5. SNMP 経由でファームウェアのアップグレード終了にトラップを送信する機能に対応致しました。 6. Gratuitous ARP に対応致しました。
	IPMacBind.mib	<ol style="list-style-type: none"> 1. IMPBv3.82 に対応致しました。 2. DHCPv6 スヌーピング + NDP スヌーピング + IMPBv6 に対応致しました。
	Jwac.mib	<ol style="list-style-type: none"> 1. JWAC モニタ機能を強化致しました。(認証済み JWAC ユーザの MAC アドレスとともに IP アドレスとユーザ ID が表示可能です。) 2. JWAC ローミングに対応致しました。
	L2mgmtDGS3200.mib L2mgmtDGS3216.mib	D-Link Green 3.0 に対応致しました。

	L2mgmtDGS3224.mib	
	L2ProtocolTunnel.mib	L2 プロトコルトンネリング(L2TP)に対応致しました。
	McastFilter.mib McastVLAN.mib McastSnooping.mib	1. 最大マルチキャストグループ数に達した場合に、“max_mcast_group”にリプレイスとドロップアクションが設定できるよう対応致しました。 2. igmp_snooping を有効化もしくは filter_unregistered_group の設定時に、パススルーはマルチキャストパケットをリザーブするよう対応致しました。
	NLB.mib	NLB
	PktStormCtrl.mib	1. ブロードキャストストームコントロール機能において、“countdown”のパラメータを“3-30”分、“time_interval”のパラメータを“5-600”秒に対応致しました。 2. ブロードキャストストームコントロールから無効ポートの自動リカバリに対応致しました。
	PPPoEmgmt.mib	PPPoE Circuit ID Insertion に対応致しました。
	radiusAccounting.mib	WAC に対応する RADIUS アカウンティングをサポート致しました。
	SSL.mib	中間認証証明書 (Intermediate CA Certificate) に対応致しました。
	StaticFDB.mib	スタティック FDB を作成する MIB を追加致しました。
	SDCardMgmt.mib	SD カードマネージメントに対応致しました。
	Wac.mib	WAC カスタマイズ WEB GUI ページに対応致しました。
	VoiceVLAN.mib	Voice VLAN v2.1 に対応致しました。
	ZoneDefense.mib	D-Link Zone Defense に対応する MIB 定義を追加致しました。
	lldp.mib lldp-dot1.mib lldp-dot3.mib lldp-med.mib	LLDP-MED 機能に対応致しました。
	Standard MIB : IPV6-TC.mib DIFFSERV-DSCP-TC.mib Ianaaddressfamilynumbers-mib.mib IEEE8023-LAG-Mib.mib Rfc2856(HCNUM_TC).mib Rfc4836(MAU).mib IANA-MAU-MIB.mib Ie8023ah.mib INET-ADDRESS-MIB.mib	標準 MIB を追加致しました。

コマンドラインインタフェースの変更点:

ファームウェアバージョン	変更点
V2.00.B023	1. 802.1X CLI direction control パラメータを削除致しました。

2. ユーザ名“enable”は作成できないよう変更致しました。

修正した問題点：

ファームウェアバージョン	修正した問題点
V2.00.B023	<ol style="list-style-type: none"> 1. IP-MAC エントリでの違反が発生した場合に、スイッチが IMPB トラップを送信しない問題を修正致しました。 2. 同時に一つの SIM グループに属する 21 台のスイッチにファームウェアをダウンロードする場合、全てのメンバはファームウェアのファイル転送を完全に行うことができない問題を修正致しました。 3. SIM コマンダースイッチ上で STP が有効化されている場合、全てのメンバスイッチへのファームウェアアップグレードが STP コンバージェンスをリスタートさせてしまう問題を修正致しました。 4. LACP メンバポートに接続/切断を行った場合(全てのメンバポートではなく)、STP トポロジの変更が生じ、LAG ポートを経由するトラフィックが破棄される問題を修正致しました。 5. DGS-3200 ACL は IPv6(Ethernet type 0x86dd)パケットを拒否できない問題を修正致しました。 6. リブート時に、メッセージ“Error: already register!! / dump authentication admin_user”が表示される問題を修正致しました。 7. STP が有効化され、マルチキャスト(閾値 512)のトラフィックコントロールが設定されている場合、スイッチは“topology change”イベントを受信するが、物理的なリンクは切断されている問題を修正致しました。 8. デバイスシステム IP インタフェースは LACP のリンクから Ping を送信できない問題を修正致しました。 9. Android デバイスは RADIUS 経由の JWAC 認証を行うことができない問題を修正致しました。 10. Telnet 経由で設定ファイルをダウンロード後、コンソールから“save”コマンドを実行するとスイッチが例外処理に移行してしまう問題を修正致しました。 11. ping6 コマンドを実行した際に、100ms 間隔でエコーリクエストが送信される問題を修正致しました。 12. LACP において、“mode passive”の設定の場合に通信の復旧時間が長くなる場合がある問題を修正致しました。 13. “download firmware_fromTFTP”により、STP、LACP、DULD の処理が不安定になる問題を修正致しました。 14. STP と BPDU Protection が同一ポートで有効に出来てしまう問題を修正致しました。 15. 最大 VLAN 数を作成する際に LACP/BPDU が停止する問題を修正致しました。 16. 最大 VLAN 数を作成した状態において、“show config current_config”、“show tech_support”、“upload cfg_toTFTP”、“upload tech_support_toTFTP”を実行すると、DULD、STP、LACP の処理が不安定になる問題を修正致しました。 17. WAC 認証をご利用の場合、200 を超える認証済みのエントリが存在する条件において、“clear jwac auth_state ports all”を実行すると、STP、LACP の処理が不安定になる問題を修正致しました。 18. JWAC 認証をご利用の場合、200 を超える認証済みのエントリが存在する条件において、“clear jwac auth_state ports all”を実行すると、STP、LACP の処理が不安定になる問題を修正致しました。 19. MBA 認証をご利用の場合、300 を超える認証済みのエントリが存在する条件において、“clear jwac auth_state ports all”を実行すると、STP、LACP の処理が不安定になる問題を修正致しました。

正致しました。

20. WAC、および JWAC 認証において、Windows 7 上で Internet Explorer 9 を使用した場合に、認証、ログアウトの完了までに数分要する場合がある問題を修正致しました。
21. SIM 機能をご利用の環境において、Firefox から WEB GUI 経由でファームウェアのアップグレードを実施すると、失敗することがある問題を修正致しました。

既知の問題:

ファームウェアバージョン	既知の問題
V2.00.B023	1. ケーブル診断機能において、Link 速度が 100Mbps(対向が FE のみサポートの PHY)の場合に診断の実行によりリンクダウンする問題。

Copyright 2006-2011 D-link Japan K.K.